

平成22年度
財団法人山口市文化振興財団
事業計画

平成22年3月

基本目標

山口市から管理運営の指定を受ける山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて各施設の持つ特性を生かしながら、さまざまな文化に触れる機会、参加する機会などを提供する企画事業を実施し、山口市における文化振興の一翼として、文化を育むまちづくりに寄与するよう努める。

また、組織体制については、現行の特例民法法人から早期の公益財団法人移行の実現に向け鋭意作業を進める。

基本方針

市民自らが多様な文化活動へ参加し、芸術文化を享受できる文化環境づくりを目指し、鑑賞、参加型及び創造型の企画事業を展開するとともに、広く文化に関する情報を収集し提供する。また、市民の自主的かつ創造的な文化活動を促進、支援するための事業を行う。

なお、これらの事業を実施するにあたって、単年度計画に基づく事業計画の策定及び事業の実施という形態のみでなく、長期的視点からの事業計画や新たな発想による事業展開をめざすとともに、これに基づく具体事業の年次的実施による事業内容の充実に向けた取り組みを推進する。

また、平成20年12月1日に施行された新公益法人法に沿って、公益財団法人認定申請作業を進め、早期の公益財団法人移行を実現し、公益的役割を担う機関としてよりいっそうの事業充実に向けた取り組みを進める。

個別事業計画

寄附行為第4条に掲げる6事業のうち、企画事業、育成・支援事業、調査研究事業、情報収集・提供及び施設の管理運営受託事業については、以下のとおりとする。

1 企画事業

当財団が所管する山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて、各施設の持つ特性を生かしながら文化振興に関する各種企画事業を実施し、文化に触れる機会、参加する機会などの拡充を図るとともに、事務局においては、幅広い市民の皆様が楽しめる娯楽性の高い事業の企画展開を図る。

(1) 山口市市民会館

自主事業の推進母体として市民会館とともに歩んできた「やまぐち市民文化の会」との共催により、市民参加型のコンサート、伝統文化をベースにした演劇の上演を開催し、市民に多様な芸術文化の鑑賞機会を提供する。

(2) 中原中也記念館

中原中也を軸として、その軌跡や親交のあった人物を紹介する常設テーマ展や企画展、特別企画展を実施するとともに、中也の人と作品を分かりやすく解説し、理解を深める一助として、講演会や学芸担当職員による読書会を開催する。また、中也が好んだ朗読を通じて市民参加型イベント「生誕祭」を実施する。

(3) 事務局

山口市民会館、山口情報芸術センター[YCAM]等、市内の文化施設を活用し、広域的かつ幅広い年齢層を対象にしたクラシック音楽、ポピュラー音楽などのコンサート、舞台芸術などの公演を実施する。

(4) 山口情報芸術センター[YCAM]

国内外からアーティストを招聘し、先駆的な作品を制作・発信して市民に優れた芸術文化にふれる機会を提供するとともに、学習支援事業に取り組み、地域の人材育成に寄与することを目指す。また、多様なジャンルをつなぐ参加型の交流・創造事業を中心に展開しセンター事業の定着を図る。

2 育成・支援事業

財団友の会会員へのサービス向上を図るとともに、組織の拡充に努める。

また、市民が日常的に文化に触れ、あるいは文化活動に取り組む機会の拡充を図るため、市民の自主的な文化活動に対し助成金を交付し、側面的に支援する事業を継続実施する。

(1) 友の会の組織化と運営

財団法人山口市文化振興財団友の会「Ars Nova Yamaguchi」(呼称:エニー)の会員について、既加入者の継続加入及び新規加入の促進を図る。

会員期間

入会日から翌年の入会月末まで

会員種別

種別	対象者	入会金(更新時には不要)	年会費
個人会員	個人	500円	1,500円

会員特典

- ・ チケットの先行予約及び割引購入
- ・ 情報誌(4・7・10・1月発行)及び催物案内(毎月末)の定期送付
- ・ 入会時及び更新時に YCAM シネマ及び中原中也記念館の招待券進呈
- ・ 協賛店での優待あり

会員数の推移(件数)

種 別	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
個人会員	1,173	837	871	1,018	882	841
ファミリー会員	183	109	106	-	-	-
団体会員	3	3	4	-	-	-
学生会員	64	56	26	-	-	-
計	1,423	1,005	1,007	1,018	882	841

(2) 市民文化活動支援事業助成金交付事業

営利を目的としない市内の個人及び団体等が行う文化事業に助成支援するため、平成9年度に創設した「財団法人山口市文化振興財団市民文化活動支援事業」を継続実施する。

また、市民に対し、情報誌や市報への掲載等による広報を行い、申請件数の増加を図る。

募集期間

平成22年3月1日～3月31日

助成金額

一事業につき50万円を上限

審査方法

審査委員会の設置、開催

申請及び採択件数の推移

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
申請件数	17	11	18	18	24	24
採択件数	12	8	15	16	18	22

3 調査研究事業

(1) 中原中也研究

関係資料の調査、収集、複製の製作等により、中原中也研究を推進する。

(2) 自主企画事業に関する調査及び研究

公演ごとのアンケート調査を随時行い、事業企画に対する市民ニーズ等の調査研究を進める。事業成果のまとめとしてドキュメント制作、展示・公演記録や、ワークショップパッケージ等のパブリシティに関わる作業を行う。

4 情報収集・提供事業

(1) 情報誌「any」の刊行

平成9年1月から刊行している情報誌を年4回(季刊)、継続刊行する。

(2) 山口市民会館催し物案内の発行

市民会館における催し物を紹介案内する広報紙を月1回、継続発行する。

(3) 中原中也記念館館報第16号の発行

活動記録、寄稿文等を掲載する館報を年1回、継続発行する。

(4) 中原中也研究第15号の刊行

研究論文、エッセイ、シンポジウム記録等を掲載する研究誌を年1回、継続刊行する。

(5) 山口情報芸術センター催し物案内の発行

山口情報芸術センターにおける催し物を紹介案内する広報物を継続的に発行する。

(6) ホームページの充実

財団及び山口情報芸術センター、中原中也記念館、山口市民会館のホームページにより、イベント情報を随時発信する。また、平成19年4月からは財団の主催・共催公演に関して、財団及び山口情報芸術センターのホームページからもチケット予約ができるシステムを整備、友の会への入会・更新もホームページ上から手続き可能となっている。

5 施設の管理運営受託事業

当財団が所管する山口市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターの管理運営において、「安全、安心、快適」に利用していただけるよう適切な業務を行います。

また、山口市民会館、山口情報芸術センターにおいては、山口市条例に基づいた施設の貸与事業を行い、利用者のニーズを踏まえた施設運営に努めます。

6 企画事業一覧

区分	事業名	開催時期	内容
財 団 事 務 局	Doris & Orega Collection Vol.5 「ナンシー」	5月28日(金) 山口市民会館 大ホール	2007年「コースター」山口公演で、観客を爆笑の渦に巻き込み、最後は拍手喝さいで幕を閉じた、その記憶がまだ新しい俳優・西村雅彦率いるドリス&オレガによる新作演劇公演。今回は、テレビ「プロポーズ大作戦」「ハチミツとクローバー」や前作の演劇「コースター」も手掛ける金子茂樹による脚本、「フラガール」「浪人街」などヒット作を生み出す山田和也が演出する話題作。出演は、西村雅彦はもちろんのこと、初舞台となる飯島直子、テレビドラマでも活躍中の安田顕、関西演劇界の旗手として全国に浸透しつつあるヨーロッパ企画より本多力、若手舞台女優として注目を浴びる岩佐真悠子など豪華キャストが登場。地方ではなかなか見る機会の少ない上質の演劇作品を市民に提供する。
	ベルリンフィル12人のチェリストたち	7月7日(水) 予定 山口市民会館 大ホール	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と肩を並べ世界最高峰とうたわれる「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団」のチェロセクション全員による贅沢なアンサンブル。19年度、21年度と当財団でおこなってきた東京都交響楽団によるオーケストラコンサートで質の高い音楽を市民に提供してきたが、それに続く音楽事業として展開。ベルリンフィル12人のチェリストたちはオリジナル曲から映画音楽、タンゴやクラシックの名曲まで幅広いレパートリーをもつ。誰もを魅了し納得させる力を持つ演奏で、音楽の魅力を存分に楽しんでもらう機会を提供する。
	一青窈(ひととよう)コンサート	10月2日(土) 山口市民会館大ホール	若年層をターゲットにしたポップスコンサートを実施することによって、これまで市民会館に足を運んだことのない客層にも市民会館および当財団の事業をアピールする。音楽のステージを通じて、いまの若者世代の表現や生き方を知ってもらう機会としたい。今回は10代～40代に人気のミュージシャンであり、女優としても活躍する「一青窈(ひととよう)」のアーティストとしての魅力を、テレビやラジオ、雑誌とはまったく違う生のライブで感じてもらう機会を市民に提供する。
	ホワイエコンサート	8月 or 10月 山口情報芸術センター ホワイエ	日本を代表するオーケストラのひとつである東京都交響楽団の金管や弦楽器等のメンバーをまねいて小編成のアンサンブルによるミニコンサートを実施。無料で開催することで普段クラシック音楽になじみのない人にも気軽に音楽を楽しんでもらう機会を提供。これまでも19年度と21年度に東京都交響楽団によるコンサートに関連イベントとしておこなったが、ホワイエを埋め尽くすほどの人が集まり、小さな子どもから高齢の方まで幅広い年代のみなさんに楽しんでいただいた。大変好評の事業であり、今後も財団事業の定期シリーズとしておこなう。
	オペラシアターこんにゃく座 「森は生きている」	12月18日(土) 山口市民会館 大ホール	NPO法人こどもステーション山口との共同主催事業として開催。これまでに山口市民会館や山口情報芸術センターにて数多く作品を上演、数々の賞も受賞している実力の高いオペラシアターこんにゃく座を招へい。ストーリーや構成、歌と音楽すべてにおいて評価が高いこんにゃく座が今回上演する作品は、日本では50年も前から舞台上で親しまれ続けている名作「森は生きている」。子どもだけではなく大人もしっかり楽しめてかつ感動を呼ぶ心に残る作品であり、そんな質の高い演劇作品を親子で観劇する機会を提供する。

区分	事業名	開催時期	内容
山 口 市 民 会 館	ペレス・プラート楽団コンサート	6月21日(月)	山口ではあまりで開催されることのない「マンボ」に焦点をあてたコンサート。海外で有名な「ペレス・プラート楽団」を招聘する。
	第23回 おかあさんコーラス演奏会	12月11日(土)	市内各地区で活動を続けているおかあさんコーラスグループが、日頃の練習成果を発表しあい、グループの技巧の向上と相互の親睦を図ることを主とした年に一度の交流演奏会。
	第15回 ニューイヤーバンド フェスティバル2011	平成23年 1月22日(土)	山口県吹奏楽連盟山口地区の小・中・高・大学・一般の加盟楽団による、新春恒例コンサート。
	第38回市民コンサート ～あの名演奏をもう一度～	平成23年 3月21日(月・祝)	やまぐち市民文化の会が育ててきた手作りコンサート。毎年各地で行われる各種音楽コンクールで優秀な成績を収めた個人・団体等を、再度山口市民会館のステージに迎え、その演奏を披露いただくアンコールコンサート。
中 原 中 也 記 念 館	第7回常設テーマ展 「『山羊の歌』まで」	平成22年2月10日(水)～ 平成23年2月13日(日) 特別企画展期間中は 除く	中原中也は、詩人としての生涯のなかで、『山羊の歌』(昭和9年)、『在りし日の歌』(昭和13年)という2冊の詩集を残した。そのうち、中也が自らの手で出版したのは『山羊の歌』1冊のみ。第一詩集『山羊の歌』が世に出たのは、中也が27歳の時である。中也は、初の詩集刊行に向けて、並々ならぬこだわりをもって編集にあたるが、しかし、その想いとは裏腹に、刊行までの道のりは順風満帆とはいかなかった。この展示では、生前唯一の詩集『山羊の歌』が刊行にいたるまでの道のりを紹介する。
	特別企画展 「河上徹太郎と中原中也」	7月23日(金)～ 10月3日(日)	河上徹太郎は、日本を代表する文芸評論家であり、音楽評論家であり、中原中也の友人であった。山口県岩国市の名家の出で、東大出身、早くに文壇に地位を築いた5歳年長の徹太郎と、無名の詩人・中原中也。若き日々、突如あらわれ消えていったこのひとりの詩人について、徹太郎はその長い評論家人生のなかで、幾度となく回想し、独自の言葉で語っている。河上徹太郎、没後30年。この展示では、河上徹太郎という人物の生涯と、徹太郎によって語り継がれる中也の姿を紹介する。
	企画展	年間 (約3ヶ月ごとに展示替え)	折々にテーマを設けて、中也の世界のさまざまな側面を紹介する企画展。 4/21～7/19 企画展 「第15回中原中也賞」 10/6～H22 1/23 企画展 「中也の住んだ町 - 中野・高円寺」 1/26～4/17 企画展 「中也が読んだ本」
	公開講演	第1回 9月18日(土) 第2回 未定	「中原中也の会」との共催の講演、テーマ展「『山羊の歌』まで」に合わせた講演。
	中原中也を読む会	毎月第4金曜日	教育普及事業として学芸担当職員による中也詩を中心とした読書会を開催。

区分	事業名	開催時期	内容
山口情報芸術センター	sound techtonics	年間1～2回開催予定	来年度来日又は国内でも先鋭的なサウンドアーティストを招聘し、YCAMの特徴である最先端の機器、技術を駆使した先鋭的なサウンドライブを開催する。
	中谷英二子+高谷史郎 「INTERENVIRONMENT～アートが再創造する環境圏」	8月7日(土)～10月17日(日)(予定)	霧の彫刻家として知られている中谷英二子により、ハワイエにある中庭において霧を使ったインスタレーションを展示。また、その作品中に「LIFE fill～」においてYCAMでの創作経験がある高谷史郎が光をテーマとした作品を展開する。また新鋭アーティスト数名によるサウンドアート作品、パフォーマンスも行う予定。
	カールステン・ニコライ+マルコ・ペリハン 「POLAR～極地としての環境観測(仮)」	11月13日(土)～2月6日(日)(予定)	メディアアートをはじめ幅広い分野で活躍しているカールステン・ニコライ(ベルリン在住)とマルコ・ペリハン(米在住)によるインスタレーション作品を制作する。 前回の「POLAR」は(オーストリア・リンツのアルスエレクトロニカにおいて「グランプリ/GOLDEN NICA」を受賞した。 今回の作品は「環境」をテーマに不可視の環境の存在を、感覚可能な空間としてインスタレーションの形で表現することを試みるプロジェクトとなる。
	YCAM Performance Lounge # 5 快快(faifai)「未定」 contact Gonzo	5月15日(土)、16日(日)	舞台・客席の隔たりが少なく、より実演者の近くでパフォーマンスを鑑賞できる趣旨を持ったシリーズ「YCAM Performance Lounge」5回目となる今回は、ジャンルレスな作品を作るカンパニー「快快」とダンスの出自ながら、美術館などでもパフォーマンスを行い、場を解体するかなのような身体的対話を試みる「contact Gonzo」の公演を同日に開催。2日間の公演予定。
	ホフェッシュ・シェクターカンパニーダンス公演「Political Mother」	6月20日(日)	イギリスの批評家連盟ナショナル・ダンスアワードのベスト振付家賞を2008年に受賞、サドラー・ウェルズを初めとするロンドンのメジャー劇場からコミッション作品をオファーされるなど、注目の振付家ホフェッシュ・シェクターのカンパニーの新作を上演する。同カンパニーの海外の本格的なツアーが始まったのは2008年からであり、本企画が日本初公演となる。
	子どもたちに贈る、世界のパフォーマンスアート作品(仮)	7月～8月を予定	以下の演劇作品を招聘予定。 ・「ダルレの話」(韓国)2009年きじむなフェスティバルで上演された作品の中で最も素晴らしかったとされる作品。この作品は、1950年代に起こった朝鮮戦争を通じて様々な苦しみを乗り越えようとする家族の物語であるが、戦争そのものを描くのではなく、むしろ人間愛や家族愛の偉大さや大切さを思い出させようとする作品。韓国の伝統音楽と、昔ながらのセットを使い、人間と人形が一緒に演じる、台詞はないがストーリーは展開するなど、子どもも大人も飽きることなく楽しめる作品。 ・「赤い鼻」(イタリア)乳幼児から楽しめる作品。登場人物は一人で、音楽に合わせてコンテンポラリーダンスや演劇のような動きをする。公演終了後に、子どもたちを舞台上に上げて、遊びのワークショップを行う。
	中村恩美+首藤康之 デュオダンス公演	10月2日(土)、3日(日)(予定)	日本及び海外で活躍する中村恩恵と首藤康之によるデュオダンス作品を上演。新作、旧作等は未定。 2010年1月に中村恩恵振付の「時の庭」(世界初演)で共演した経緯がある。

区分	事業名	開催時期	内容
	滞在制作 梅田宏明「新作」	2月19日(金)、20日(土) (予定)	ダンスのみならず、音響、照明、映像をデザインする振付家、アーティストの梅田宏明。メディアテクノロジーの使用に関心を持つアーティストに対し、YCAMが作品を共同制作することで、お互いの持つノウハウやアイデアを高次元で実現できるような作品を創作することを目的とする。また創作された作品は海外への巡演を視野に入れたものとし制作を行う。
山口 情報 芸術 センター	チェルフィッチュ 「新作演劇」	3月12日(金)(予定)	岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーチェルフィッチュの新作公演。 現代の若者を象徴するような口語を使用した作風を特徴とし、2007年にYCAMでもでもperformance loungeシリーズとして上演された「三月の5日間」では岸田國士戯曲賞を受賞するなど、2000年代のパフォーミングアーツシーンに大きな役割を果たす劇作家・演出家の岡田俊規。彼の新作を通して、ことばと身体のリアルなあり方とそこから見えてくる現代社会の姿を提示する。
	白井剛新作ビデオダンス制作	7月上旬制作 12月公開予定	2008年制作した勅使川原三郎「Friction of Time - Perspective Study vol.2」に続く、オリジナルビデオダンスの制作を行う。ダンス、演出に「true / 本当のこと」の白井剛。2004年に初演され、2006年トヨタコロオグラフィ・アワードを受賞するなど白井の代表作の一つといえる舞台『質量,slide,&』を映像化する。
	MTBE(Media Technology in Body Expression)	7月31日、8月1日 11月12日、13日	MTBEは身体表現におけるメディアテクノロジーとのコラボレーションの可能性を探るものであり、その研究にこれまでYCAMの滞在制作にて開発されたWSでの方法論を再利用し、より広い可能性を追求を試みる。 (1) "Walking Around Surround" × 白井剛(ワークショップ、及びミニ公演) 教育普及部により開発された音響ワークショップツール"walking around surround"を白井剛さんが表現ツールとして使用することによるミニ公演、及びワークショップを行う。"walking around surround"は音の仕組み、及び空間と音の関係を考察するツールであるが、それらを熟知するパフォーマーとの共同作業により広く市民にアクセスしうるプログラムを開発する。 (2) 梅田宏明ワークショップ 2010年に滞在制作予定のダンサー、梅田宏明による身体ワークショップでは、アーティストが今回の滞在制作で制作予定の作品に関連したワークショップを実施する。センサリング技術を使用し、参加者の身体の動きに応じ、スクリーンに投影されたイメージが多様に変化する様子を体験することができる。
	鑑賞者育成研究・実施プログラム	6月12日、10月16日、1月15日	目的は作品を能動的に鑑賞できる鑑賞者づくりの法則の開発 09年度に国内の教育普及事業の調査を行った結果、従来のWSの評価方法は主観的、誘導的なアンケート形式が多く画期的なWS評価システムは国外、国内には存在しなかった。 ここで確立した評価法や成果についてはPDF形式にまとめ、Webでの公表を行うものとする。 将来的には各種学会に発表することを目標とする。
	鑑賞者育成研究・評価法研究	通年 ワークショップやギャラリーツアー時に行う	身体表現とメディア表現がどのように絡み合い、舞台芸術という枠組みの中でどのように発展していったかをテーマに年間3回のレクチャープログラムを実施。年間を通じたプログラムを受講することで、各分野の身体表現が生まれた背景、作家の意図と、そこでのメディアの有益性などを時間をかけて理解してもらうことを目的とする。

区分	事業名	開催時期	内容
	オリジナルワークショップパッケージ「メディアエッセンス」出張ワークショップ事業	通年	これまで開発してきた、YCAMオリジナルワークショップパッケージ(ケータイ・スパイ・大作戦、modulobe、walking around surround、パスタ建築WS)を、出張ワークショップを実施。
山口情報芸術センター	展覧会、舞台公演に付随した教育普及プログラム	通年	本来、ギャラリーツアーやバックステージツアー、関連ワークショップというのは、展覧会や舞台公演に付随して、「理解をうながす」「告知」といった目的で実施されることが多かった。 2010年度は、これらの目的に加えて、「ユーザーの鑑賞環境を整備する」「ユーザーの成長を見守る」といった目的を加え、地域へ出向いていってのアウトリーチ活動についても「告知宣伝」以上の「鑑賞の楽しみを伝える」「見る目を肥やす」といった目的を持たせる。 また、舞台公演の終了後に「アフターアワーズカフェ(仮称)」を実施。鑑賞したあとにポストトークで専門家の話を聞くばかりでは、受動的な鑑賞から脱却できない。それを解消する方法として観賞後に作品について談笑することのできるカフェを設置(アンコーラに協力を打診)。パソコンを使って鑑賞した感想を観客同士がその場で交換、シェアできる仕組みもラボと共同で開発する。2010年度は2回程度の開催を予定。
	meet the artist 2010	通年	継続実施している長期ワークショップ。短期ワークショップでは実現し得ない、市民に対する、YCAMの深いコンセプトの伝達と、メディアに対する理解、実際の制作活動の体験を提供することによって、YCAMのサポーターになってもらい、また鑑賞者の育成を目的としたプログラム。 2010年度はビデオドキュメンタリーをテーマに制作しているアーティスト、藤井光さんとともに、ドキュメンタリーのビデオ作品を製作する。メディアとしてのビデオの持つ影響力や表現力に迫る。
	インターラボ研究開発事業	通年	YCAMでの作品、ワークショップ、サインデザインの制作、また、それらを世界の他の会場で発表していくのに必要な技術力の向上と維持に必要な基礎研究と開発を行う事業を継続して実施。
	インターラボ研修生事業	通年	世界中から1人ないしは2人を半年もしくは1年間YCAMに研修生として招聘し、共に研究、制作を行う事業。YCAMスタッフの価値観、思考の視野を広げること及び新たな人材発掘、グローバル視点での人的交流を目的とする。
	YCAMシネマ (コミュニティシネマ山口)	通年	市民の皆さんから寄せられたリクエストを中心に、ミニシアター系作品や古い洋画・邦画など山口では上映される機会の少ない様々なジャンルの映画を上映。
	YCAMシネマ (Select CINE TECTONICS)	通年(年4回程度)	映画を芸術作品としてとらえ、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史およびメディア史的視点から意義のある映画作品を紹介するシリーズ。ドキュメンタリーも含んだ、普段山口では上映される機会がまれな様々な映画作品を、映画作家やテーマ別にセレクトして上映。
	YCAMシネマ (夏の夜の星空上映会)	8月中の週末2週(金土)の4日間を予定	山口の夏の夜の風物詩になりつつある中央公園での野外上映会。
	文化庁優秀映画鑑賞推進事業	9月予定	東京国立近代美術館フィルムセンターが所蔵する優れた日本映画を上映。

区分	事業名	開催時期	内容
	全国コミュニティシネマ会議	9月10日(金)、11日(土) (予定)	全国各地のコミュニティシネマ関係者が一堂に会するコンベンションを、本年度はYCAMを会場としてコミュニティシネマセンターと共同で開催。200名程度の来場者を見込み、基調講演や分科会、プレミア映画の上映会等を開催する。
	山口情報芸術センター受託事業 山口開府650年記念事業	未定	山口開府650周年記念事業の一環として、本事業のコンセプトに沿った作品制作及び展示を行う。(詳細協議中)